

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372600615
法人名	社会福祉法人 寿宝会
事業所名	グループホーム 寿宴
訪問調査日	平成 21 年 1 月 29 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 1 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372600615
法人名	社会福祉法人 寿宝会
事業所名	グループホーム 寿宴
所在地	豊川市国府町山ノ入93番地6 (電話) 0533-80-1192

評価機関名	福祉総合研究所株式会社
所在地	名古屋市千種区内山一丁目11番16号
訪問調査日	平成21年 1月29日 評価確定日 平成21年 4年 1日

【情報提供票より】(平成20年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	19 人 常勤 13 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,500 円	その他の経費(月額)	34,400 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300, 000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1, 100 円		

(4) 利用者の概要(12 月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	12 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	9 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たけもとクリニック 医療法人鳳会可知病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い山の中腹にある3階建てのホームである。緑に囲まれた静かな環境で居ながらにして四季の移り変わりを楽しむことができる。「寄り添い、共に歩む」の理念を掲げ、その人らしい暮らしのために「できそうなこと」「できること」に目を向け、その機能を存分に発揮できるような個別のケアに取り組んでいる。また、いろいろな機会をとらえて地域交流に努めているので地域との協力関係が円滑にすすんでいる。24時間体制を持つ医療機関との連携が図られ、利用者の重度化や終末期に際しての方針や対応についても利用者・家族および職員に共有されている。利用者・家族の気持ちを大切に、その人らしい終末期を過ごすことができるような支援に取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は入浴支援と災害対策等であった。入浴支援については浴室と脱衣所の温度差を防ぐ為暖房器具を設置し、温度計の設置で温度管理を行うように改善した。災害対策については消防署の協力を得て避難訓練を行い地域の協力体制の構想はあるが、地域の人の参加による訓練には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価の意義を理解し取り組んだ。ミーティングで報告し、サービスの質の向上に向けた取り組みや改善に活かしている。言葉チェック表を利用して日頃の言葉使いの再確認が出来た。改善には全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヵ月ごとに開催している。出席者は、町内会会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員や利用者・利用者家族、ホーム職員である。ホームの状況・活動報告や地域の人のグループホームへの理解や認知症について知ってもらえるように話しをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族とはコミュニケーションを取り、何でも言いやすい雰囲気や関係作りに努めている。毎月、利用者の日々の様子や健康面について個別に記録した手紙や立替金の報告・承認を受けている。また、行事等の写真を送り、面会時にも日々の様子を伝えている。必要な時には電話連絡をしている。ホーム内に意見箱を設置したり、苦情受付機関等の説明をしている。出された意見や苦情等は申し送りノートに記入し、早めの対応を心掛け、回答や結果については電話や手紙で報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りや行事、老人会主催の地域の寄り合いに参加し、回覧板も回している。地域の中学生の職場体験の受け入れや地域の人のボランティアの受け入れを行ったり、地域防犯の為に「子ども110番」の指定も受けている。積極的に地域交流に取り組もうとしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「寄り添い、共に歩む」を理念としている。地域との交流や連携を図ることにより、住み慣れた地域での暮らしと社会との関わりを継続し安心して生活を送ることができるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各階の目に付く場所に掲示し、日々確認できるようにしている。朝・夕の申し送り時に理念の唱和をし、毎日のフロアーミーティング等で理念の具体化と共有を図り、ケアの統一に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや行事、老人会主催の地域の寄り合いに参加し、地域の中学校の職場体験の受け入れや大相撲のお相撲さんがホームを訪問してくれる際には近くの保育園の園児を招待している。地域の人が大正琴や手品のボランティアにも来てくれている。地域防犯のための講習を受け「こども110番」の指定を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価実施の意義を理解し全員で取り組んでいる。評価の結果はミーティングで報告し、サービスの質の向上に向けた取り組みや改善に活かしている。改善には全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、町内会会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員や利用者・利用者家族、ホーム職員参加で開催している。状況・活動報告はもとより地域にグループホームの理解と認知症について知ってもらえるように話をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、介護保険課に出向き相談や現状報告をしたり、市から情報提供を受けることもある。また2ヵ月に1度の市の連絡協議会には管理者が参加し情報交換をしている。介護相談員の受け入れも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日々の様子や健康面について個別に記入した手紙や立替金の報告、行事等の写真を毎月送っている。面会時にも日々の様子を伝えたり金銭出納の報告や承認を得ている。また必要に応じて電話での連絡もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とはコミュニケーションを図り、意見・不満・要望等何でも言いやすい雰囲気や関係作りに努めている。玄関や各階に意見箱を設置したり、家族等に苦情受付機関やホームの受付窓口の説明をしている。出された意見や苦情等は申し送りノートに記入し、早めの対応を心掛け、回答や結果については電話や手紙で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入る時には利用者で紹介をしている。また各階には利用者と職員の写真を名前入りで掲示しており、顔と名前を覚えることができる。ホーム内の行事等で利用者と職員が馴染めるような配慮もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が向上心を持って仕事に取り組み、実践に活かせるように経験や能力に応じた研修参加を支援している。法人の研修は管理者から職員に声を掛け参加してもらい、ホーム内の研修は職員から要望のあった内容について2ヵ月に1回実施している。ホーム外の研修参加後は伝達講習を行い知識・技術の共有と向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会や県のグループホーム協会の研修に参加し、他のグループホームや近隣施設と連絡を取り情報交換を行っている。また他のグループホームの見学等を行い交流を図り、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際は、家族にホームを見学してもらい、家族だけの訪問の際も本人と面談しコミュニケーションを図って、不安を抱えながら利用する事がないように対応している。又、ショートステイや外泊を利用し、帰宅願望の方も家族の協力を得て徐々に馴染めるようにサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、裁縫やことわざ等で生活の知恵を教えてもらう場面も多い。また、日々の生活の中で、喜びや、辛さを共感し共に支えあい過ごすようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や表情から、利用者の思いを引き出すよう心がけており、意思表示ができない利用者に文字盤でコミュニケーションを図ったこともある。市の介護相談員と話をする機会を設けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が把握した日々の情報と共に、入居前のケアマネージャーや他施設職員のアドバイス、医師等の意見も聞き、家族や本人の要望を取り入れて、利用者がその人らしい暮らしを継続できるよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとにカンファレンスを行い見直しを行っている。身体や状況の変化には、必要に応じて協力医やかかりつけ医、ケアマネージャー等の意見を聞き、利用者や家族とも話し合い現状に添ったプランの見直しを行い計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前からのかかりつけ医への通院は、原則として家族が行っているが、出来ないときは状況に応じて柔軟に対応している。又、リハビリや買い物、墓参りなどの外出なども希望を聞きながら支援している。		
1. 理念と共有					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診は2週間に1度受けており、医師との連携も24時間体制でとれるようになっている。かかりつけ医を受診している場合も情報を共有し連携ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者、家族の希望を聞き、意思確認の上同意書、事前指示書を取り交わしている。重度化の際は、本人、家族の意向を確認、話し合い必要時は医師からも家族に連絡、全員で方針を共有している。職員は終末期における対応等の勉強会を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者の個性の把握に努め、誇りやプライバシーを損ねないよう日々心がけている。通信や掲示物も確認書で家族の了承を得た上で掲載している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の気分、体調を考慮し、利用者の方々の暮らしを大切にしている。買い物や喫茶店など外出が日課の人や、ゆっくり休んでいたい人など様々なので、利用者に合わせて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物作り、配膳、片付けなどそれぞれが、出来ることを職員と一緒にやっている。介助が必要な利用者には、職員が同じテーブルでさりげなく介助し、会話を楽しみながら食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は9時から17時となっている。それ以外の時間も希望があれば可能だが、現状は特に希望はでていない。入浴を拒む利用者も週に2～3回は入浴できるよう、タイミングや誘い方を考慮し支援している。また、入浴剤を使いリラックスして入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやモップかけ、野菜作りなど、得意な分野で力を発揮してもらえるよう支援している。画材を自宅から持ち込み、窓越しの専用スペースで風景を描いたり、歌やハーモニカ、塗り絵など好きなことで楽しむことができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、喫茶店、墓参りなど、フロア毎に希望を聞きながら支援している。また、利用者の状態を考慮し、車椅子や、手引き歩行で外のベンチや屋上、裏の畑でおやつを食べたり、日向ぼっこで戸外に出かけるなど、可能な限り要望に応じて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、エレベーター、各ユニット出入り口の鍵はかけていない。外出しそうなときのサインを把握し、さりげなく付き添い声をかけたりして一緒に外出している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3月と9月に訓練を実施、3月は消防署の協力を得て、非常階段を使っでの避難時間を計ったり、職員が消防署直通の電話を使い日中、夜間を想定して訓練を行った。	○	地域の人々の訓練への協力は現状では得られていないので、参加を呼びかけて訓練を行うことを検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録され、嚥下や咀嚼困難な方にはミキサー食や粥、刻み食にするなど調理法を工夫している。食事や水分摂取が困難な人にはゼリー状にして、一日を通じて確保できるよう支援している。各フロア毎に給水ポットが置かれ、夜間などいつでも飲めるようにしている。便秘予防にセンナ茶を提供している。		
itiniti wo tuujite					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて明るい居間は、畳スペースもあり、それぞれのくつろぎの場所になっている。窓からの景色も季節を感じ、居心地のよい空間になっている。屋上は、毎年夏になると、家族を交えて恒例の花火大会を楽しんでおり、日々の散歩でも周囲の緑が目を楽しませている。各フロア毎に工夫された写真で利用者、スタッフが紹介されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスや仏壇、写真など、これまで馴染んだものがおかれ、シンプルではあるがゆったりとして、落ち着いた雰囲気になっている。		